

5つの小さな輪

- ひとと自然、暮らしをつなぐ -

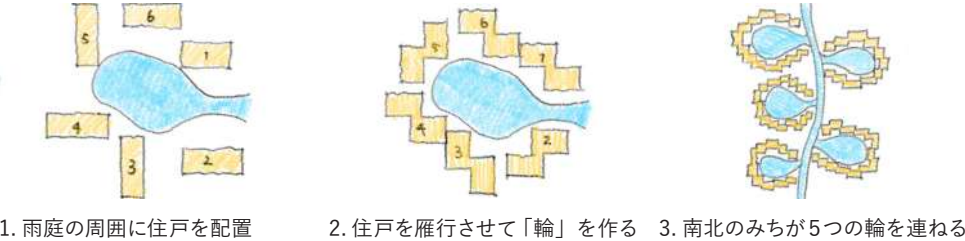


安全で快適に過ごすことができ、若者の定住につながる住環境の整備

社会課題と自然災害に備えた助け合える関係性の構築

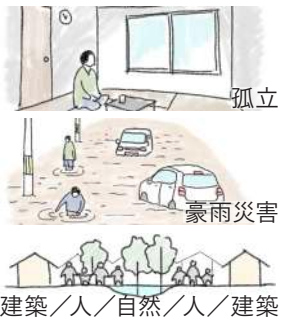
近年、公営住宅では、「孤独死」など、住民の孤立による社会的な問題が顕在化しています。また、頻発する豪雨災害に備えるには、被災時に助け合える関係性を日常から育むとともに、自然を抑え込むのではなく、雨や緑を暮らしの中に可視化し、自然を身近に感じられる住環境が求められます。そこで私たちは、人と人、人と自然とのつながりを育む場として、敷地内に必要となる調

整池を「雨庭」として捉え直し、その雨庭を中心に、住戸と共用空間が一つの輪を描く「5つの小さな輪」を提案します。5つの輪は、住民同士の適度な距離感を保ちながら、自然な見守りや声掛け、交流が生まれるコミュニティの単位となります。5つの輪と、それらをつなぐ南北のみちは、「栗の駅」と公営住宅、周辺の公共施設を結びます。日常には人が行き交う緑道として、雨の日には5つの雨庭をつなぐ「水みち」として機能します。5つの輪と南北のみちが、人と人、輪と地域、そして暮らしと自然をつなぎ、山江村の新たな共生の風景をつくります。



周辺環境への調和とコミュニティ創出に配慮した住環境の整備 / ユニバーサルデザインに配慮した計画

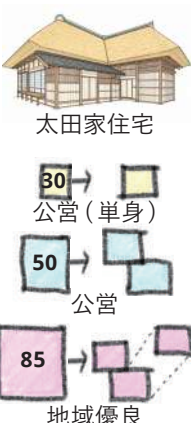
孤立と災害に応じる共生の風景



人と自然、建築を一体的に捉え、社会問題や自然災害に対して、住民同士が助け合うことのできる繋がりを日常の中で育みます。

鉤型により家並の単位を揃える

●球磨郡の象徴的な建物である太田家住宅に見られる鉤型形状を継承します。
●30㎡・50㎡・85㎡の住戸を、そのまま異なる大きさの建物とするのではなく、小さな単位に分節します。大きな住戸も小さな屋根の連なりとして表すことで、住戸タイプによるスケールの差を抑え、山江村の集落景観になじむ、まとまりのある家並みをつくります。



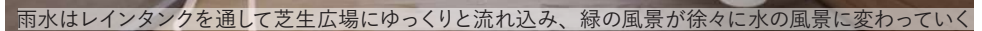
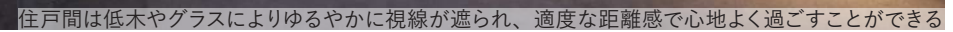
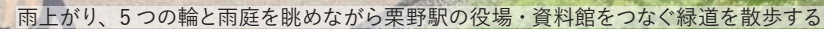
多世代がつながり暮らしを支え合う

●異なる世代と住戸タイプを混在させ、すべての住戸が広場に面する配置とします。
●子どもがのびのびと遊び、その姿を多世代が見守る環境が、日常の交流と支え合いを育み、若者や子育て世代が安心して住み続けられる集落をつくります。



5つの小さな輪

- みちが雨庭を繋ぎ、5つの輪が地域と繋がる -



公営住宅概算工事費：791百万円、地域優良賃貸住宅概算工事費：133百万円（税込）